

論文審査の結果の要旨

平成 30 年 7 月 13 日

申請者： 王 媛

論文題目： 「中国の大学日本語専攻教育における異文化コミュニケーション能力の教育内容に関する研究 ―社会的ニーズと教育現場の視点から―」

審査結果と理由

口述試験は、平成 30 年 7 月 13 日（金）午後 5 時から 6 時 10 分まで、城西国際大学東金キャンパス本部棟 6 階会議室で実施した。

以下の理由により、審査員全員一致で合格とした。

本研究は中国の大学における日本語専攻教育で、異文化コミュニケーション能力を育成するための教育内容モデルを提言することを主たる課題とし、中国人の社会人を対象に、日本語による日本人とのコミュニケーションにおいてどのような能力が必要であると認識しているかを調査し、その社会的ニーズと現在の教育現場とのギャップから、研究課題への答えを導き出すものである。課題を解決するための論拠として、適切なデータ収集とデータ分析を行い、各データ分析の結果に対しては先行研究との関連を示して深く考察されており、結論には妥当性と信頼性がある。また、論文は一貫性と各章間の整合性が高く、質の高い論文となっている。さらに、筆者は本研究の不十分な点を十分に認識しており、研究者としての今後の活動の可能性と本研究分野の将来的な進展が大いに期待できる。

本研究の意義としては、研究が遅れている日本語教育の枠組みの中での異文化コミュニケーション能力の育成という分野に研究の焦点を当てていること、中国語母語話者の視点に限定されてはいるが、日本語を媒介とした異文化コミュニケーション能力の構成要素を社会的ニーズの実証調査により、質的・量的の両面から記述できたこと、また、それによって異文化コミュニケーション能力の評価測定に指標を与えることができたことが第一に挙げられる。また、中国の日本語専攻教育における異文化コミュニケーションの育成の現状を教育大綱、教科書、教師という 3 つの側面から明らかにし、上記の社会的ニーズとの相違点を浮き彫りにした点、そして、そこから異文化コミュニケーション教育のモデルを提言した点も、本研究が初めて行ったことであり、意義深い。

本論文は今後の言語教育を単に言語を教える教育から「グローバル的志向」「異文化に対する情意と態度」を育む人間教育へと転換することの重要性を示唆する優れた論文である。

口述試験における審査委員からの質問に納得できる説明がなされ、論文内容の不備へのコメントは既に今後の課題として筆者が認識しているものであったことを付記しておく。

主査：人文科学研究科 原 やす江

副査：人文科学研究科 川口 義一

副査：大連外国語大学 陳 岩

副査：元城西国際大学特任教授 高見澤 孟